

染土の配合による畳表色調改善

県農業試験場八代支場 い草加工部(現、農研センターい草研究所加工部)

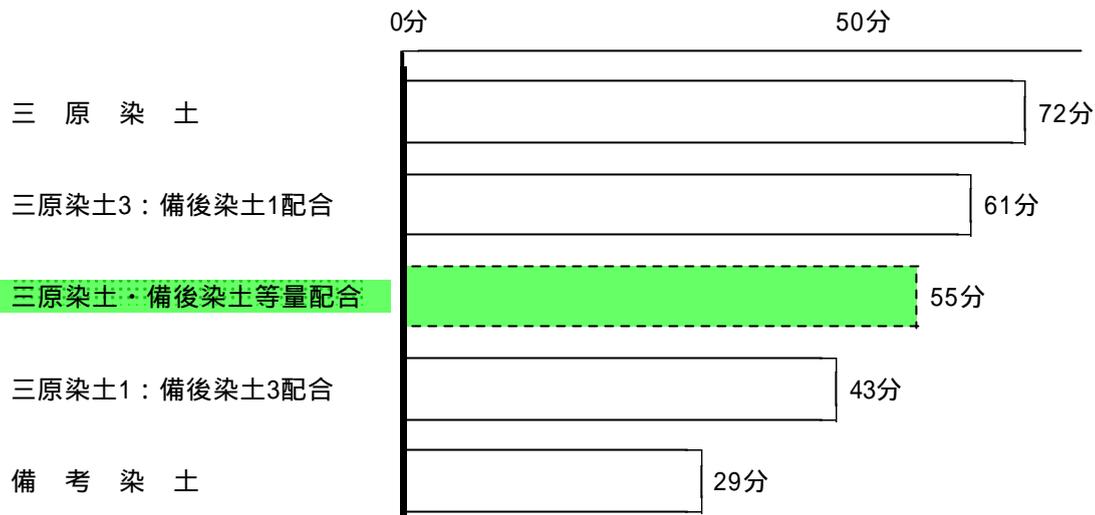
研究のねらい

畳表の品質評価のうえで、「色調」の占める割合は極めて大きい。本県産畳表については、「変色が早い」とか「色調が暗い」など消費者の評価が低い。

これを解決するため、染土の配合による色調の改善を検討した。

研究の成果

1. 消費者の畳表色調評価は、地域性や年齢等によって色調の志向に違いがあったが、県産畳表を取扱う産地問屋の評価では、青色系染土と白色系染土とを配合した中間の色調のものが各々の単独使用のものより高く評価された。
2. 畳表色調の改善は、一般的な見地から、青色系の淡路産染土と白色系染土との等量配合が適当である。
3. 乾燥いぐさの吸水性は、染土の種類によって大きな差があり、淡路産染土は吸水性が劣る。畳表製織前のカシ適性を改善するうえから、淡路産染土の欠点を補うため、吸水性の優れる白色系染土と配合して使用すれば効果が大きい。
4. また、吸水性の改善によって、蕈面・行がよくなり畳表品位が向上する。吸水性を改善するためには、淡路産染土に対する他染土の配合割合を等量以上とすることが望ましい。



原草の吸収が速いものほど、畳表に織り易い。

図 原草の吸水速さ

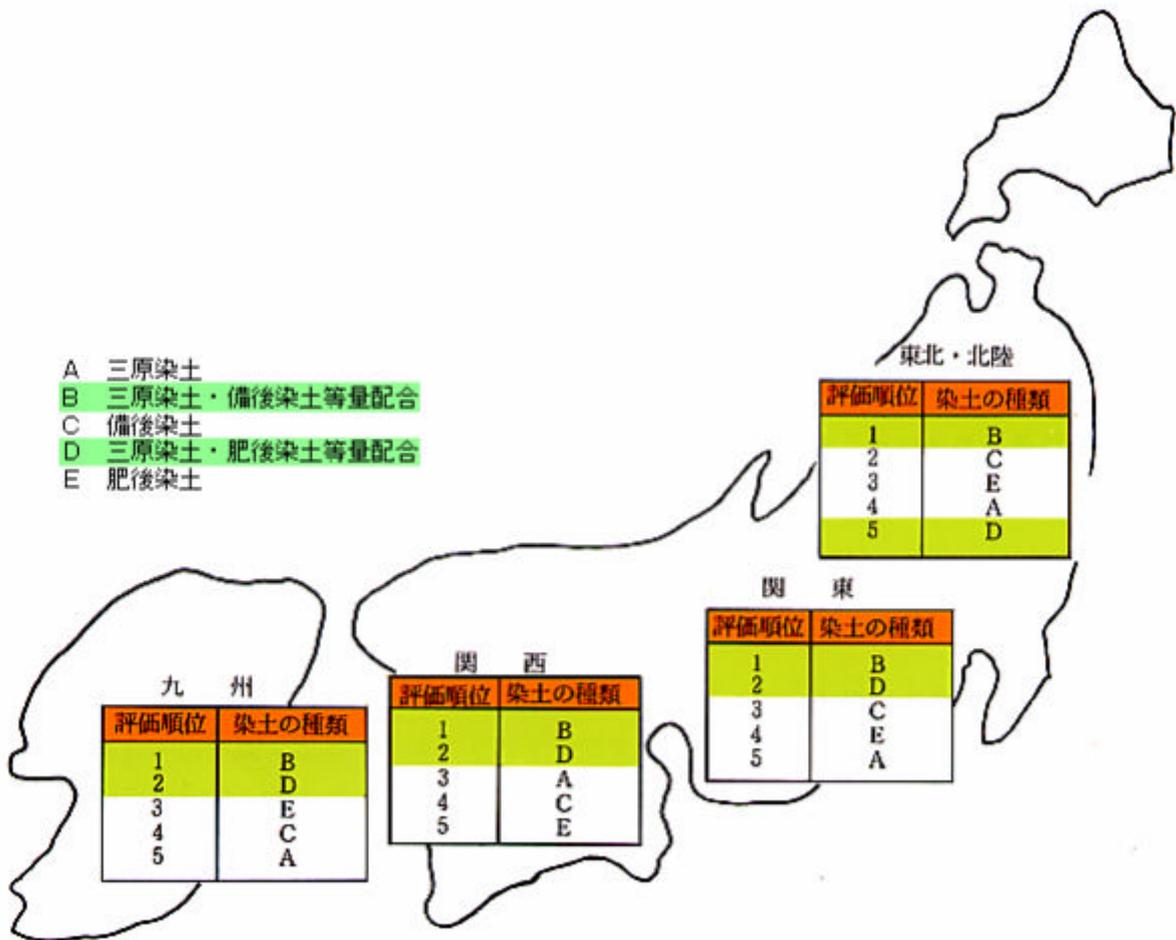


図 2 得意先別の産地問屋による畳表色調評価